

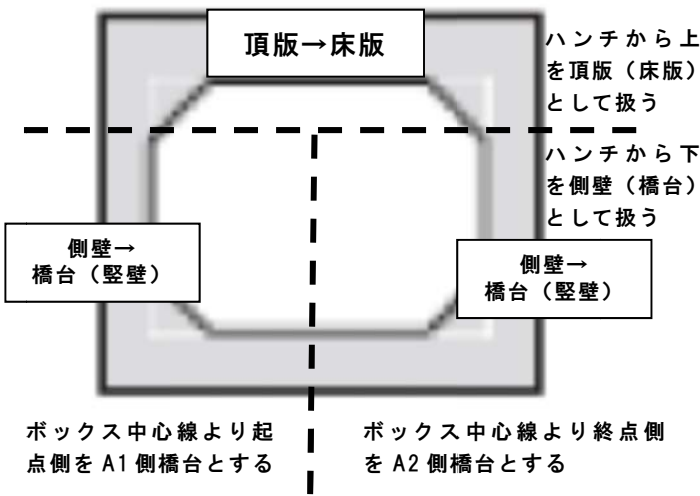
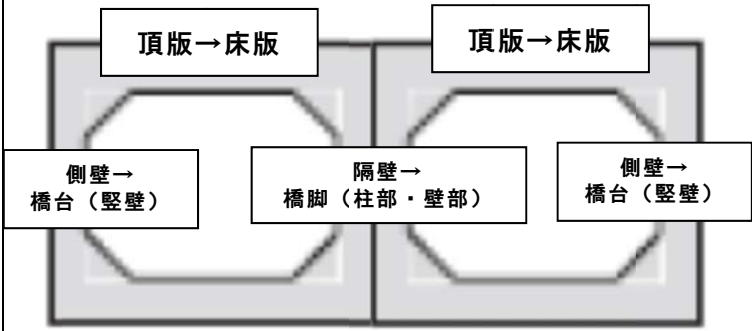
部位・部材区分の参考資料

< 目 次 >

1.	ボックスカルバートの部材区分	1
2.	主桁・床版・地覆の部材区分	1
3.	ブラケットの部材区分	4
4.	パイルベント橋脚の部材区分	5
5.	地覆・高欄・防護柵の部材区分	5
6.	歩車道境界の部材区分	7
7.	橋脚・橋台等における天端拡幅の部材区分	7
8.	伸縮装置付近の部材区分	8

1 ボックスカルバートの部材区分

ボックスカルバートの部材は、下図のとおり、頂版→床版、側壁→橋台（堅壁）、隔壁→橋脚（柱部・壁部）、ウイング→橋台（翼壁）として損傷を評価する。

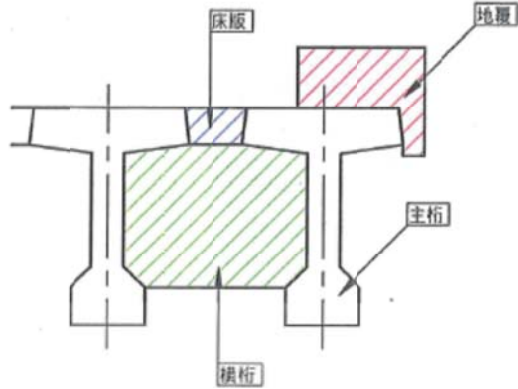
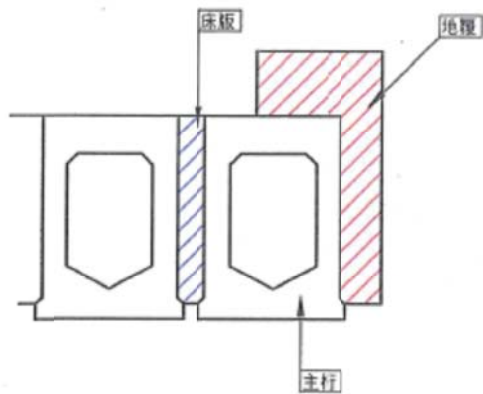
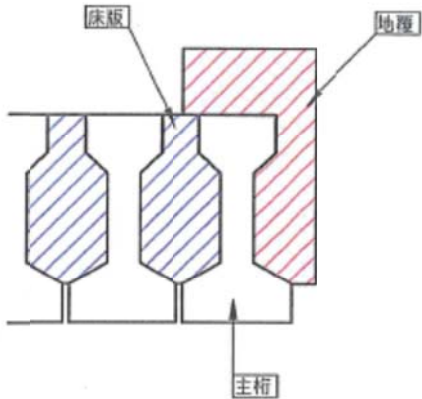
部材区分	要領関連ページ
 <p>頂版→床版</p> <p>側壁→橋台（堅壁）</p> <p>側壁→橋台（堅壁）</p> <p>ハンチから上 を頂版（床版） として扱う</p> <p>ハンチから下 を側壁（橋台） として扱う</p> <p>ボックス中心線より起 点側を A1 側橋台とする</p> <p>ボックス中心線より終点側 を A2 側橋台とする</p>	<p>「付録—3 定期点 検結果の記入要領」 P10、11</p>
 <p>頂版→床版</p> <p>頂版→床版</p> <p>側壁→橋台（堅壁）</p> <p>隔壁→橋脚（柱部・壁部）</p> <p>側壁→橋台（堅壁）</p>	<p>「付録—3 定期点 検結果の記入要領」 P10、11</p>

2 主桁・床版・地覆の部材区分

（1）T 桁、ホロー桁、I 桁における主桁・床版・地覆の区分

T 桁、ホロー桁、I 桁における主桁、床版、地覆の部材区分は下図を標準とし、間詰部は床版として損傷を評価する。

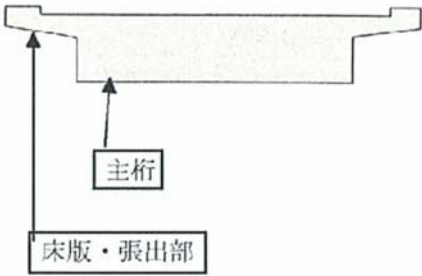
（出典：平成 25 年度 中部地方整備局管内橋梁診断業務 橋梁点検の統一事項と留意点）

部材区分	要領関連ページ
<p>【T桁】</p> 	<p>「付録—3 定期点検 結果の記入要領」 P19、24</p>
<p>【ホロー桁】</p> 	<p>「付録—3 定期点検 結果の記入要領」 P19、24</p>
<p>【I桁】</p> 	<p>「付録—3 定期点検 結果の記入要領」 P19、24</p>

（２）床版橋における主桁・床版の区分

床版橋における主桁・床版の区分は以下を標準とする。（床版橋も主桁と床版に区分する。）

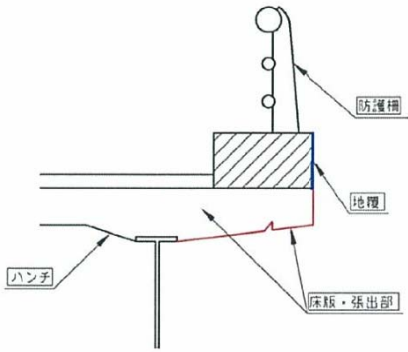
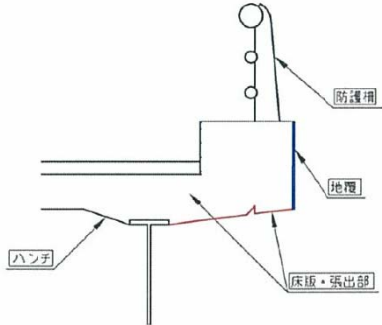
（出典：平成 25 年度 中部地方整備局管内橋梁診断業務 橋梁点検の統一事項と留意点）

部材区分	要領関連ページ
	<p>「付録―3 定期点検結果の記入要領」</p> <p>P19</p>

（３）RC 床版における床版、地覆の区分

床版と地覆の境界が明確でない場合は、下面を床版、側面を地覆とする。

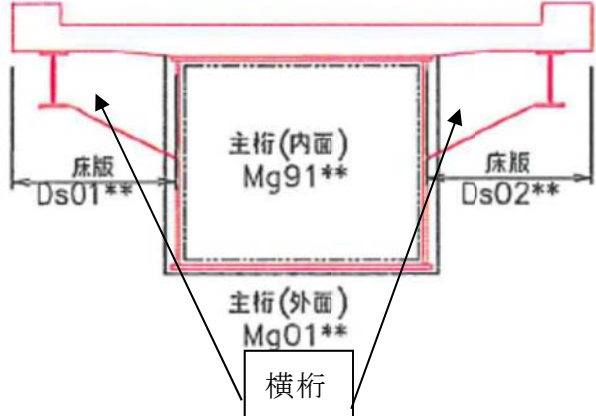
（出典：平成 25 年度 中部地方整備局管内橋梁診断業務 橋梁点検の統一事項と留意点）

部材区分	要領関連ページ
 <p>床版と地覆の境界が明確な場合</p>	<p>「付録—3 定期点検結果の記入要領」</p> <p>P14、24</p>
 <p>床版と地覆の境界が不明確な場合</p>	<p>「付録—3 定期点検結果の記入要領」</p> <p>P14、24</p>

3 ブラケットの部材区分

ブラケットは、横桁として扱う。

(出典：平成 23 年度管内橋梁検査等業務教育・指導資料 平成 23 年 7 月
(財) 海洋架橋・橋梁調査会 関東支部)

部材区分	要領関連ページ
	<p>「付録—3 定期点検結果の記入要領」</p> <p>P14</p>

4 パイルベント橋脚の部材区分

パイルベント橋脚は、基礎杭を橋脚天端位置まで立ち上げ、杭頭部を鉄筋コンクリート梁で結合した橋脚形式である。パイルベント橋脚の部材区分は、地盤面より露出している部分を全て橋脚として扱い、地盤面より下を基礎として扱う。（フーチングのある橋脚については、フーチングまでを橋脚として扱う。）

部材区分	要領関連ページ
<p>パイルベント橋脚 PCウェル橋脚</p> <p>【柱状体の橋脚】 【フーチングのある橋脚】</p>	<p>「付録—3 定期点検結果の記入要領」</p> <p>P11</p>

5 地覆・高欄・防護柵の部材区分

(1) 防護柵と高欄の区分

車両が衝突する可能性がある（最も車道よりの）施設は、（高欄ではなく）防護柵とする。

（出典：平成 23 年度管内橋梁検査等業務教育・指導資料 平成 23 年 7 月（財）海洋架橋・橋梁調査会 関東支部）

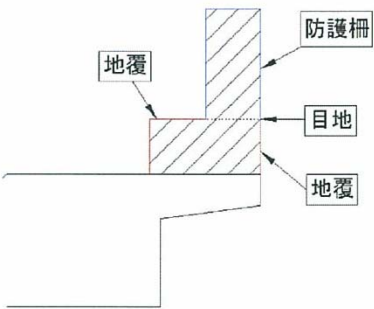
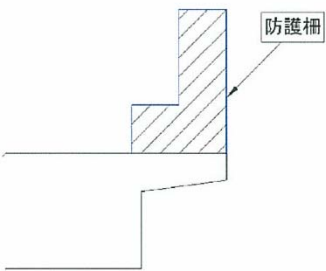
部材区分	要領関連ページ
<p>※歩車道境界部は防護柵とし、歩道外側は高欄とする。</p>	<p>「付録—3 定期点検結果の記入要領」</p> <p>P24</p>
<p>※歩車道境界部に柵がないため、歩道外側を防護柵とする。</p>	<p>「付録—3 定期点検結果の記入要領」</p> <p>P24</p>

（２）防護柵・高欄と地覆との区分

防護柵（又は高欄）の外側に明確な目地がある場合は、目地から上側を防護柵（又は高欄）とし、目地から下側を地覆とする。

また、防護柵（又は高欄）の外側に明確な目地がない場合は、全て防護柵（又は高欄）とする。

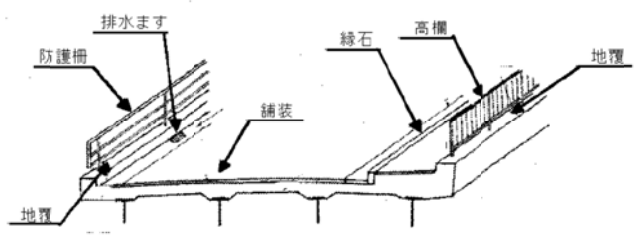
（出典：平成 25 年度 中部地方整備局管内橋梁診断業務 橋梁点検の統一事項と留意点）

部材区分	要領関連ページ
 <p>防護柵（又は高欄）の外側に明確な目地がある場合</p>	<p>「付録—3 定期点検結果の記入要領」 P19、24</p>
 <p>防護柵の外側に明確な目地がない場合</p>	<p>「付録—3 定期点検結果の記入要領」 P19、24</p>

6 歩車道境界の部材区分

車道部と歩道部の境界は、縁石とする。


(出典：平成 23 年度管内橋梁検査等業務教育・指導資料 平成 23 年 7 月
(財) 海洋架橋・橋梁調査会 関東支部)

部材区分	要領関連ページ
	「付録—3 定期点検 結果の記入要領」 P24

7 橋脚・橋台等における天端拡幅の部材区分

橋脚・橋台等の天端拡幅は、落橋防止システムとする。その際、全幅にわたって拡幅しているものについては、下部工の要素番号に合わせる。

(出典：平成 23 年度管内橋梁検査等業務教育・指導資料 平成 23 年 7 月
(財) 海洋架橋・橋梁調査会 関東支部)

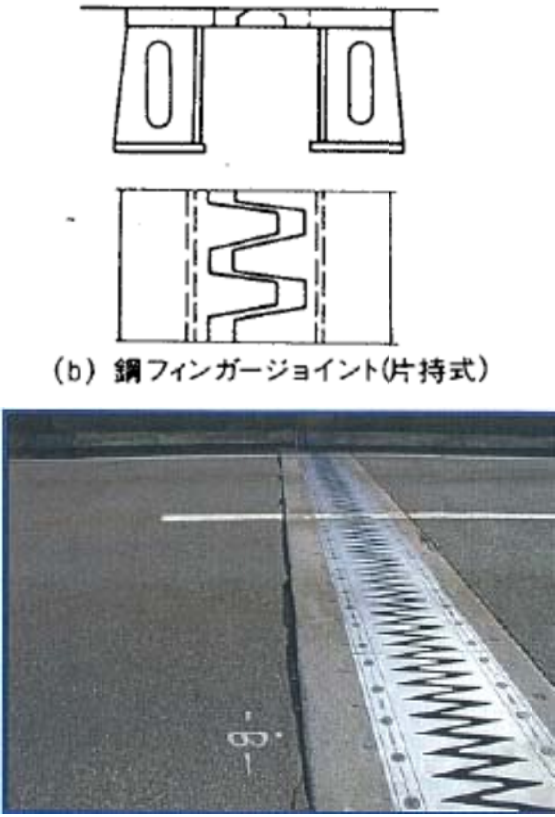
部材区分	要領関連ページ
	「付録—3 定期点検 結果の記入要領」 P23、30

8 伸縮装置付近の部材区分

伸縮装置の後打ちコンクリートも伸縮装置として扱うこととし、伸縮装置付近の路面の凹凸は、以下の部材とする。

- ・フェースプレート、伸縮金物と後打ちコンクリートの段差 → 伸縮装置
- ・後打ちコンクリートと舗装の段差 → 舗装

(出典:平成 25 年度 中部地方整備局管内橋梁診断業務 橋梁点検の統一事項と留意点)

部材区分の明確化	要領関連ページ
 <p>(b) 鋼フィンガージョイント(片持式)</p>	<p>「付録—3 定期点検 結果の記入要領」 P25</p>